



ザ・ペンズ サロン

筆者の豊富な機微に通じた人生経験から、夢と希望の光を希求する、次世代へのメッセージ!

ジョークサロン会員／リレーエッセイ⑩

無手勝流コミックどどいつ瓦版

既に21精気(世紀)ユーモアジョーク拾場でお馴染みの「コミックどどいつ瓦版」を担当しているジョークサロン会員です。

副題に「世間話をコミック仕立て語る七七五調」とあるように、硬い話も砕いてリズムカルに読み易く思えるのが、どどいつ調の醍醐味です。

俳句の構成は五七五の三句の定形と季語で成り立つ決まりがありますが、いわゆる京都逸の場合にも七七五調という決まりから成り立っています。

これを更に七(三四)、七(四三)、七(三四)、五のように分解できます。しかし破調のものも多く、また頭に五音字を付けて五七七五調のものもあり、メディアからの情報を時事川柳並みに世相を眺めて無手勝流に語るのが私流の七七五調のどどいつです。

●笛や太鼓や 三味線要らず
語る七七五調

●作る場所など どこでもよくて
風呂やトイレや 床の中

以下のものは七七五調のものや、破調のものの参考例です。

(例1)

●立てば芍薬 座れば牡丹
歩く姿は 百合の花

(例2)

●お前百まで わしゃ九十九まで
共に白髪の 生える迄

(例3)

●佐渡へ佐渡へと 草木もなびく
佐渡は居よいか 住みよいか

(例4)

●伊勢は津で持つ 津は伊勢で持つ
尾張名古屋は 城で持つ

(例5)

●散切り頭を 叩いてみれば
文明開化の 音がする

(例6)

●ここは串本 向いは大島
中を取り持つ 巡行船

(例7)

●ジョークサロンは 楽しい拾場
エッセイの森から 伝笑鳩
干支のどどいつ編

●ネズミ年だよ 運転チューイ
アクセルブレーキ 要チューイ

●牛の年だよ のんびり寝たり
朝寝朝酒 半端人

●虎の年だよ 何でもトライ
努力が報われ 知恵が湧く

●兎年だよ 耳張り上げて
情報しつかり かき集め

●辰の年だよ 努力をすれば

立つ瀬ごまんと 有る世界

●巳年蛇年 未練を捨てて
明日の大きい 夢を見る

●馬の年だよ 人間万事
塞翁が馬 福を待つ

●馬は馬連れ 頼馬に生きて
馬齢重ねて 馬の歳

●ひつじ年だよ 銘々メール
賀状省略 あけおめー!

●猿の年だよ 聞かざる見ざる
言わざる 老いざる 引き籠り

●鶏の年だよ 色とりどりの
取り付きや取り去れ 習慣病

●犬の年だよ 歩けば棒に
運も不運も 嗅ぎ分ける

●猪の年迎えて 頭は石に
だけど脳みそ 軟化気味

●干支はグルグル 年月巡り
巡りさえない 知恵と金

●沖繩の旅日記編
所々に ハイビスカスや

●ブーゲンビリアが 咲き誇る
青い芝生に 瀟洒なハウス

●広い敷地の 嘉手納基地
スペインの旅日記編

●ピレネー山越え 明かりが見えて
ここはスペイン マドリッド

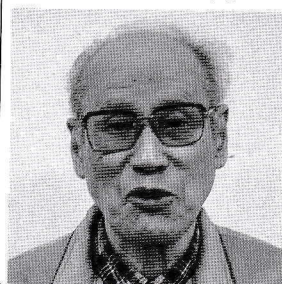
●市内観光 渋滞抜けて
目指すプラダの 美術館

●高齢者編
よわい○○ 後期と呼ばれ

●無理に意固地を 張り切り過ぎりや
老いの冷や水 崇る歳

著者プロフィール

たか まさ あき
高木 正明



1936年、大阪市出身
高卒後、職としては父親の町工場がスタート。
仕事内容は機械の整備、設計、製造、組立、調整、納品等の何でも屋で、夜は東京電機大の夜間部(電気科)通いが二十歳前後の時代。
この頃は東京五輪の誘致などで多忙な時代でカラーTV放送開始、東京タワー建設、新幹線開業、高速道路開通等々、各家庭ではカラーTV・電話機・水洗トイレ設置の奨励などで、やたらに忙しい時代でした。

ここで俗曲・都々逸の完成者で都々一坊扇歌(どどいつぼうせんか 本名・岡福次郎 1769?~1852)について簡単に記載しておきます。
常陸の人で幼時に失明し、江戸に出て船遊亭扇橋に師事、寄席の客に謎の題を出してもらい、その解を即興で都々逸節の唄にして返して、寄席の場を大いに沸かせたようです。
以下は扇歌作と言われているもの。
●たんと売れても 売れない日でも
同じ機嫌の かざぐるま
諦めましたよ どう諦めた
諦めきれぬと あきらめた
扇歌の辞世の作と伝えられている歌。
●都々逸も 歌いつくして 三味線枕
楽に私は 寝るわいな

『ザ・ペンズ サロン エッセイの森』は「ゆっくり考え、思索する。それはネットじゃなく活字文化が担う役割である」